

Shaping the Future

女性として輝き続けるための理想のワーク・ライフ・バランス

— 未来に向かってあなたはどんな進路を選びますか？

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、日本は、今後の復興計画も含め、価値観の転換やビジョンが必要な大きな岐路に立たされているといわれています。国際競争も一層厳しくなることが予想される中、少子高齢化が急速に進む日本では、女性の能力を十分活用するとともに、活躍の場を作ることが急務です。とりわけ、資源の乏しい日本で、これまでの科学技術創造立国を維持・強化し、多様な視点や発想を取り入れながら発展を続けるために、将来の基盤でもある科学技術の担い手・伝達役として、理系女性への期待がより一層膨らんでいます。大学で学ぶ優秀な理系女性が少しずつ増えてきている中、女性が元気にいきいきと活躍することで、社会全体に活気が生まれていることは、行政、産業界、そして大学・研究機関においても認められてきています。この動きに合わせて、2006年度から科学技術分野における女性の活躍促進にむけた支援として、国も具体的な施策を展開しています。

理系分野の学習や研究には、自然への探究心を刺激し、人間の好奇心をくすぐる効果があります。この感覚は、みなさんも、すでに中学・高校の授業であじわっているかもしれません。科学には、「未知へ挑む楽しさと謎を解明」した際の満足感を提供する力があります。こうした前向きな面白さがあるにもかかわらず、これまで女性は「大学で学ぶ分野や将来の就職先」を選ぶとき、理系の分野をあまり選択してきませんでした。その背景には、伝統的な性別役割分担(男性は仕事、女性は家事・育児)意識の強さや、理工学部で学んでいる身近な女性の先輩が少なく、自己を発揮しながら社会で活躍できる場があるのか、また、結婚・出産・育児などのライフイベントをどう乗り越え、仕事と生活を両立しているかを身近で示してくれるロールモデルの存在が少なかったことなどがあるようです。折角、得意な理系分野があり、楽しく学んでいるのに、学びをさらに深めるチャレンジの機会を失い、将来の夢も見つからないまま、理系を敬遠するのは、とても残念なことです。

このロールモデル集は、理系の進路には、大学・企業などの研究者、企業の技術者としてのみでなく、科学ジャーナリスト・弁士・サイエンスコミュニケーターなど、多種多様な活躍の場があるのだということを具体的な事例とともに、みなさんに紹介するものです。初版は、これまでになかった試みで関心も高かったのか、2万部ほどがあつという間になくなってしまいました。改訂にあたっては、世界に羽ばたく理系女性たちのキャリアも紹介しようと、海外留学・海外勤務をされた方々にも声をかけました。彼女たちの海外での貴重なキャリアと経験が、現在の職務にどのように生かされているのかについても掲載されています。男女を問わず、海外で挑戦しようとする元気な若者が少なくなった、といわれていますが、彼女たちの体験談から、グローバルに活躍することへの具体的なイメージが湧いてくるかもしれません。理工系という科学の世界共通言語を持って世界に挑むことは、また違った角度から「未知へ挑む楽しさ」を増幅してくれる経験になることでしょう。

本誌が、読者の方々にとって、今こそ従来の考え方や生き方に縛られず、新たな未来の選択とグローバルな活躍にむけて「チャレンジ」しようと思いつききっかけになることを祈ってやみません。

みなさんの未来の夢が、理系分野で学ぶことによって、膨らみ、輝きを増しながら少しずつ形となって実現されていくことを、期待し応援しています。

独立行政法人科学技術振興機構 男女共同参画主監 小舘 香椎子



小舘 香椎子(こだてかしこ)プロフィール

日本女子大学家政学部家政理学科I部(物理専攻)卒業。工学博士(東京大学)。東京大学工学部電子工学科助手を経て日本女子大学理学部数物科学科教授。現在、日本女子大学名誉教授。

専門分野は光エレクトロニクス。第20期・21期日本学会議会員、同・科学者委員会男女共同参画委員会委員長。電波監理審議会委員(総務省)、総合科学技術会議専門委員、応用物理学会副会長・フェロー、SPIE(国際光工学会)フェロー、など政府委員・学会役員など多数を歴任。内閣総理大臣表彰(男女共同参画社会への貢献)、文部科学大臣表彰科学技術賞、総務大臣表彰など受賞多数。